

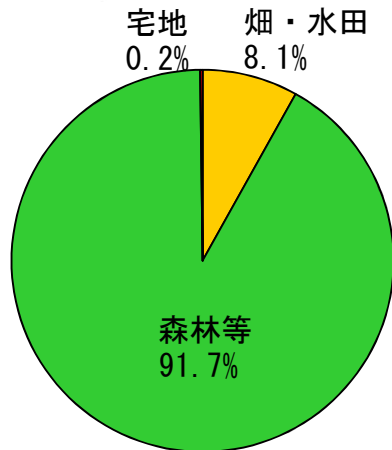
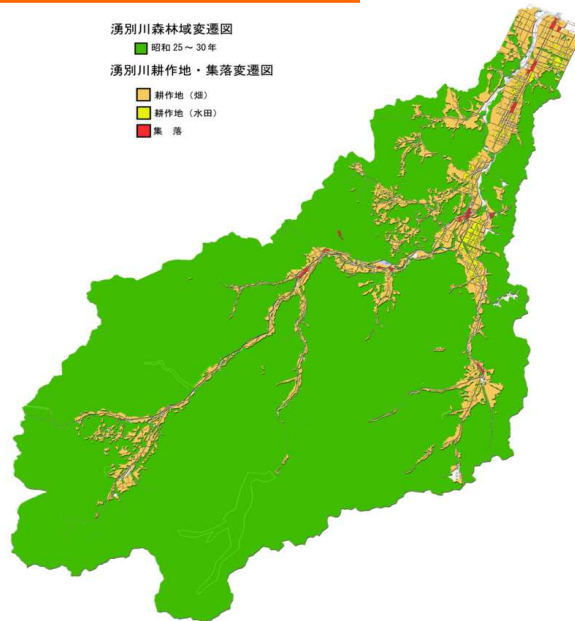
河川整備の効果

<ストック効果>

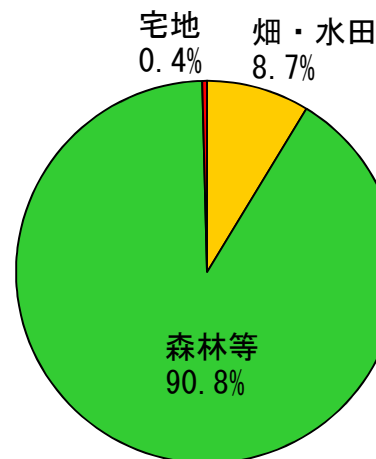
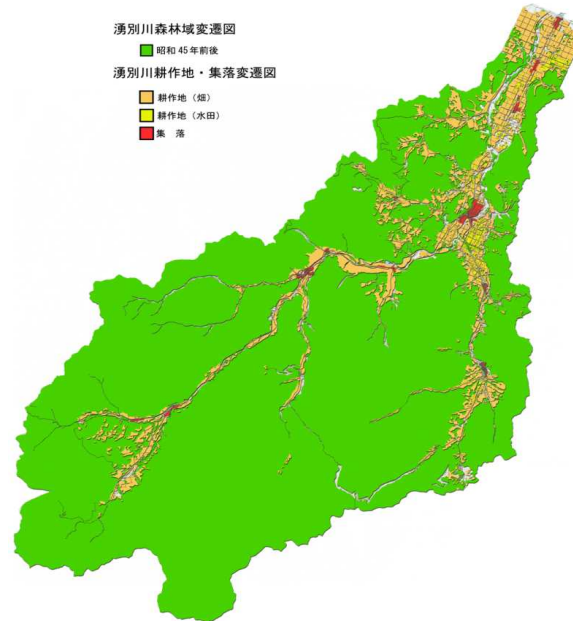
ストック効果(土地利用の変化)

- 湧別川流域において、昭和9年以降さまざまな治水対策が施され、湧別町の遠軽町の市街地発展、畑や水田等による耕地の拡大が進んだ。

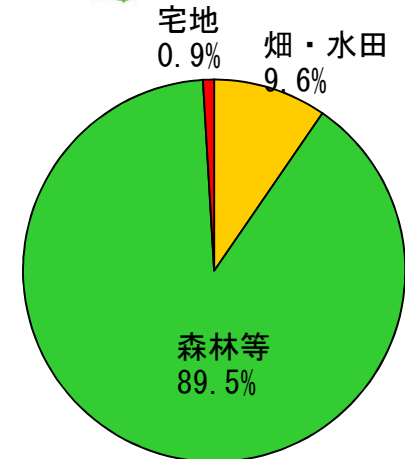
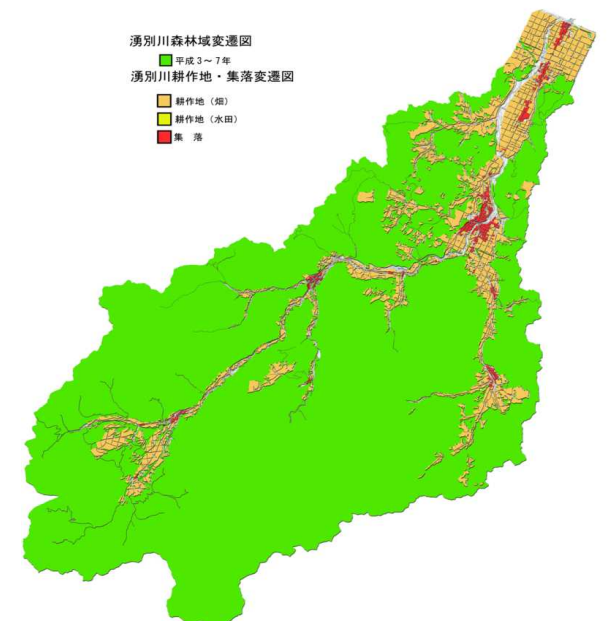
土地利用の経年変化



出典：昭和29年度 北海道市町村勢要欄(昭和29年3月)
【昭和中期】



出典：昭和43年度 北海道市町村勢要欄(昭和44年4月)
【昭和後期】

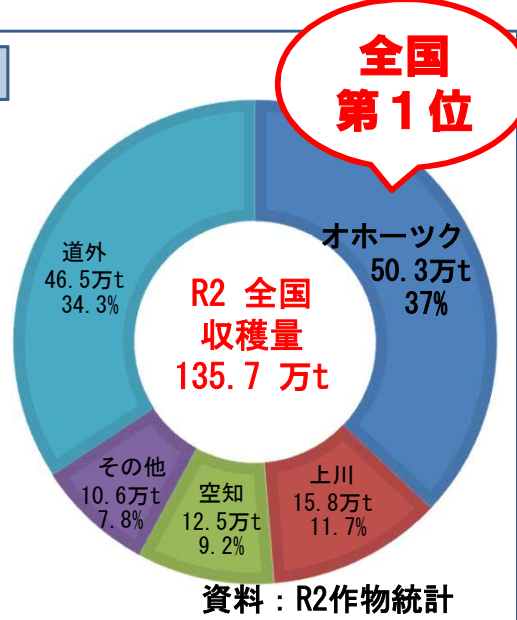


出典：第129回(令和2年)北海道統計書
【令和】

ストック効果 (地域経済を縁の下で支える河川事業)

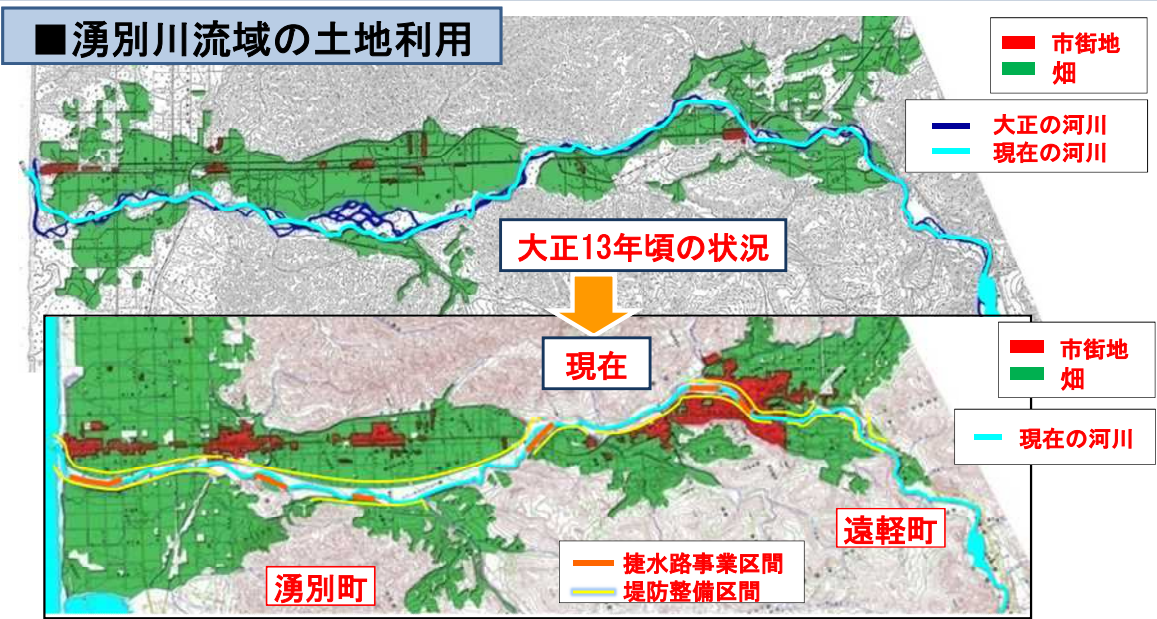
- ◆ 湧別川流域では河川整備事業の進捗に伴い、河川周辺に市街地や農地が形成されてきた。
- ◆ 河川事業と並行して整備されてきた、国営かんがい排水事業などの農業農村整備事業の促進もあり、オホーツク管内のたまねぎの収穫量は、全国一位となっている。

■ 全国たまねぎ収穫量

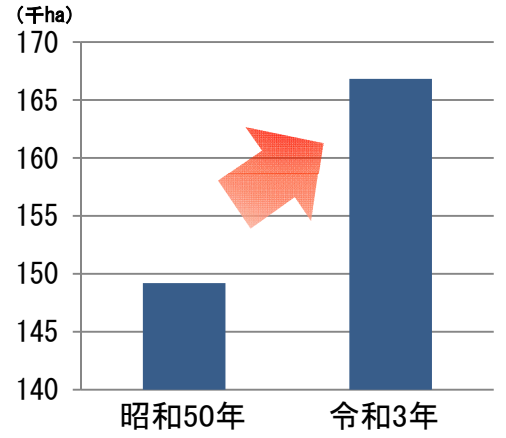


全国 第1位

■ 湧別川流域の土地利用



オホーツク管内耕地面積



オホーツク管内の耕地面積は149千ha (昭和50年) から166千ha (令和3年) に拡大。また、管内4流域の氾濫区域の約80%が耕地であり、洪水により氾濫が生じた場合、農作物への大きな被害が生じ、各家庭への農作物の供給が滞ることが懸念される。

出典：オホーツクの農業2021 (オホーツク総合振興局)

洪水被害

○平成18年10月洪水は戦後最大流量を記録。
 ○近年では平成10年9月、平成13年9月、平成18年10月、平成28年8月豪雨等、大規模な洪水が発生し、堤防の侵食等や浸水被害が発生。

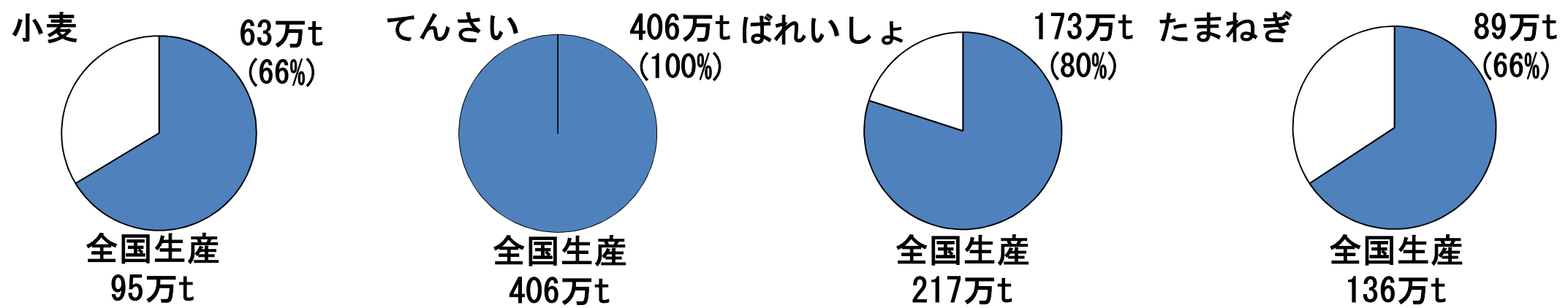


参考

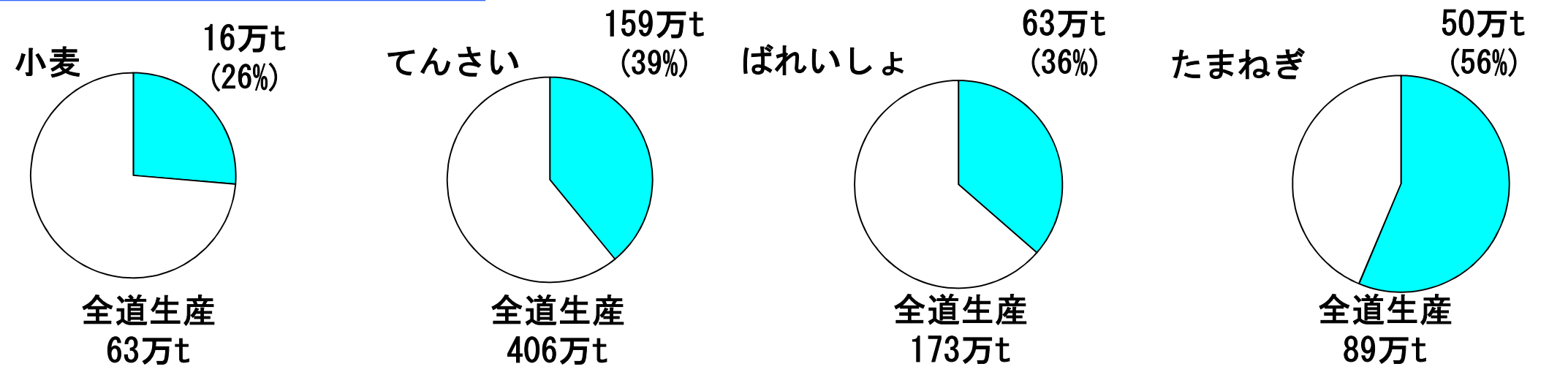
主要農産物生産量（全国シェア、道内シェア）

- ◆ 北海道が日本一の生産量を占める農産物には、小麦、てんさい、ばれいしょ、たまねぎ などがある。
- ◆ オホーツク圏では、てんさい、ばれいしょ、たまねぎなどが、高い道内シェアとなってい

■北海道が日本一の生産量を占める農産物



■オホーツク圏※の道内シェア



※オホーツク圏(北見市、網走市、紋別市、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、大空町)